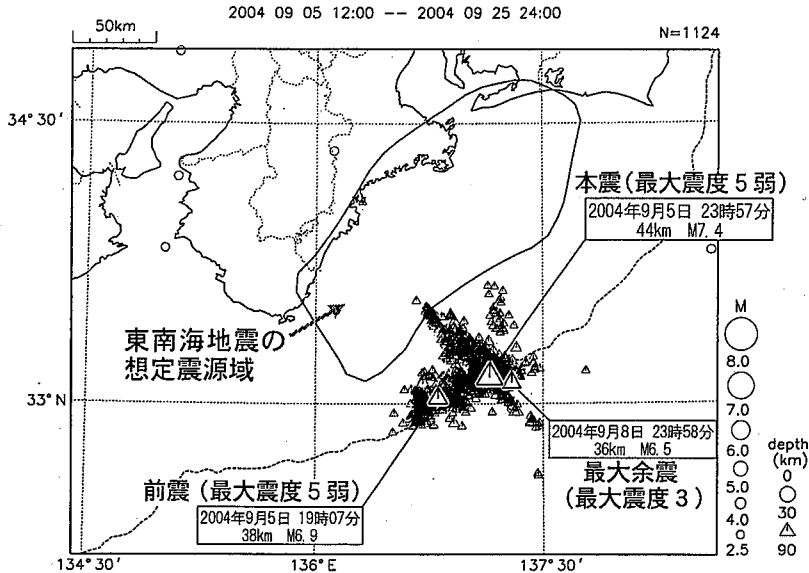
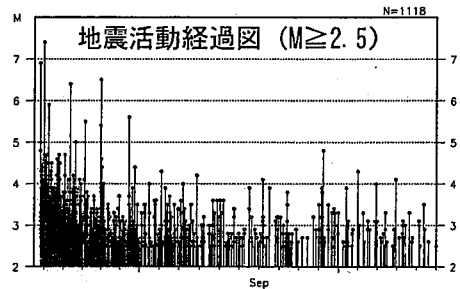
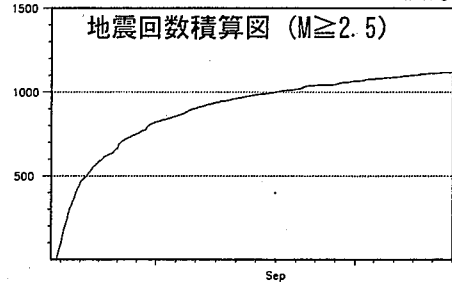


9月5日 東海道沖の地震

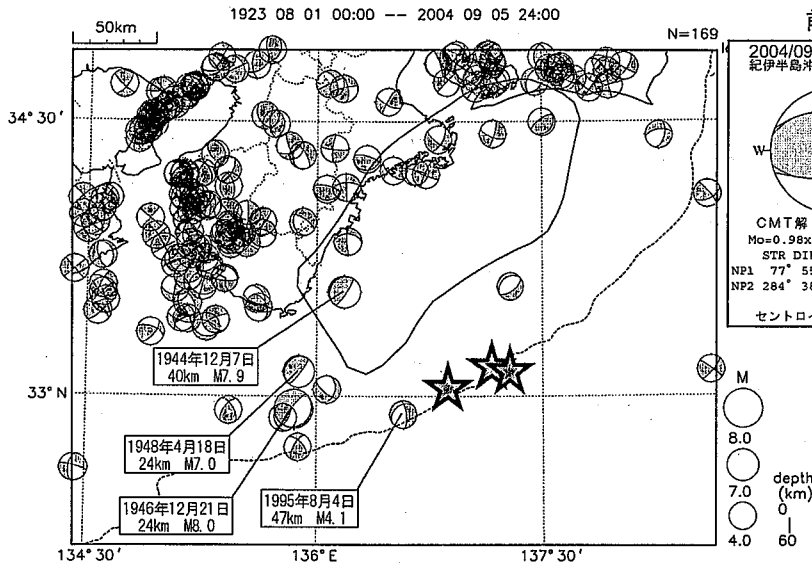
震央分布図 (2004年9月5日12時以降、 $M \geq 2.5$)



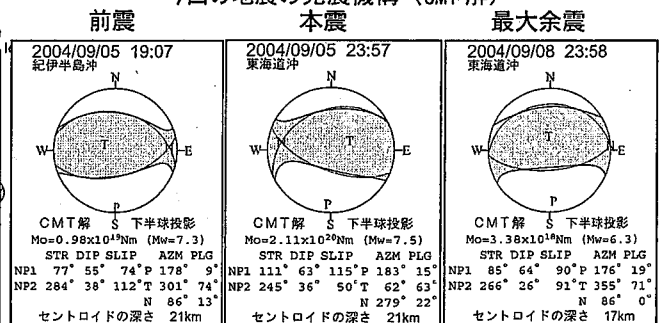
2004 09 05 12:00 -- 2004 09 25 24:00 N=1118



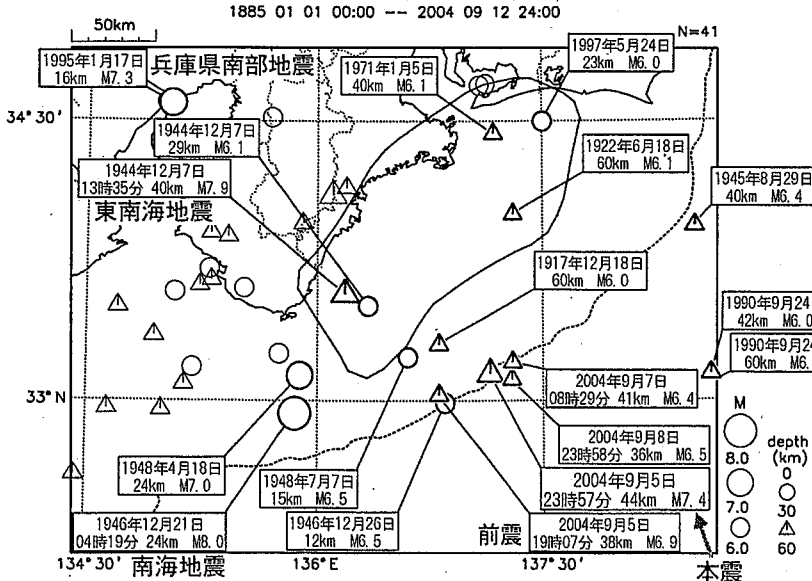
発震機構分布図 (P波初動解)
(1923年8月以降、 $M \geq 4.0$ 、深さ60km以浅)



今回の地震の発震機構 (CMT解)



震央分布図 (1885年1月以降、 $M \geq 6.0$)



2004年9月5日23時57分に東海道沖でM7.4(最大震度5弱)の地震が発生した。この地震に伴い、串本で高さ0.9m、神津島で高さ0.8mの津波を観測した。

また、その約5時間前の19時07分には、本震の西南西約40kmでM6.9(最大震度5弱)の前震が発生し、神津島で高さ0.5mの津波を観測した。

地震活動は、前震-本震-余震型で推移し、8日23時58分には余震域の東端でM6.5(最大震度3)の最大余震が発生した。

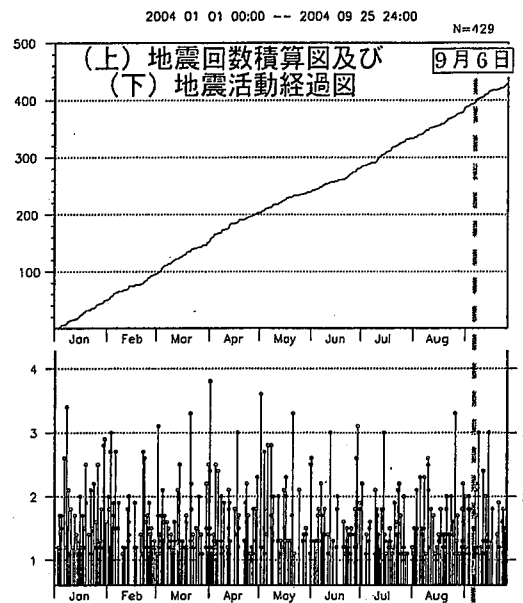
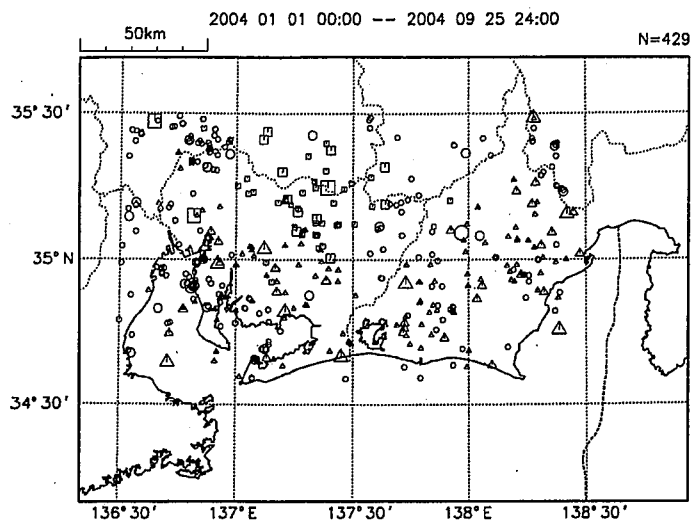
発震機構(CMT解)は、いずれも南北方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレート内部の地震と考えられる。

今回の活動の周辺では、1944年12月7日に東南海地震(M7.9)、1946年12月21日に南海地震(M8.0)の地震が発生している。

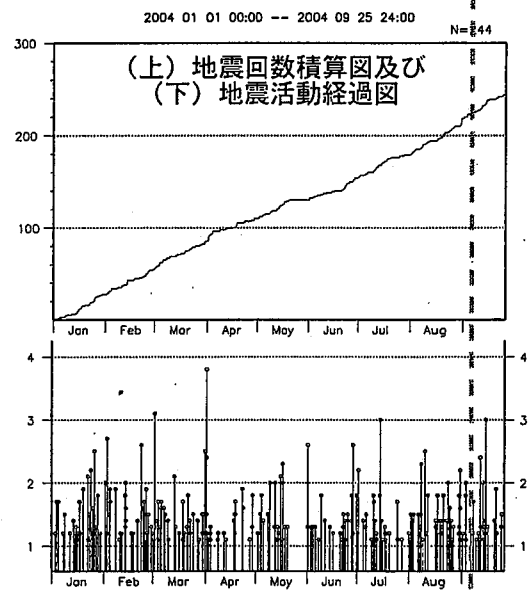
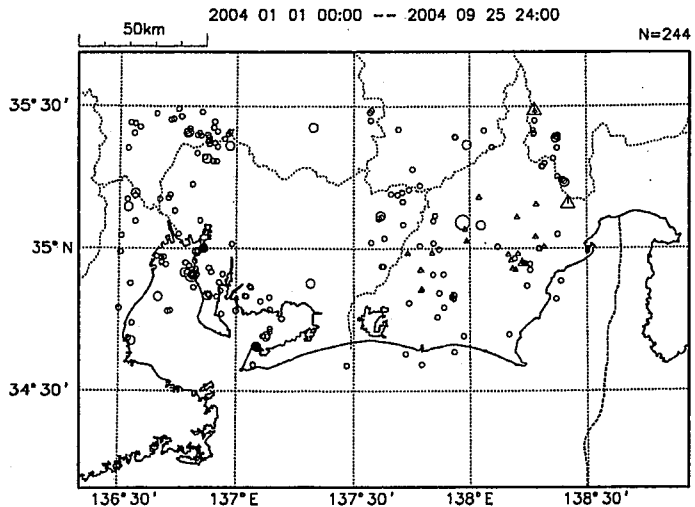
東海地方の地震活動

紀伊半島沖・東海道沖の地震直後に、東海地方のスラブ内の地震活動がやや活発化した。

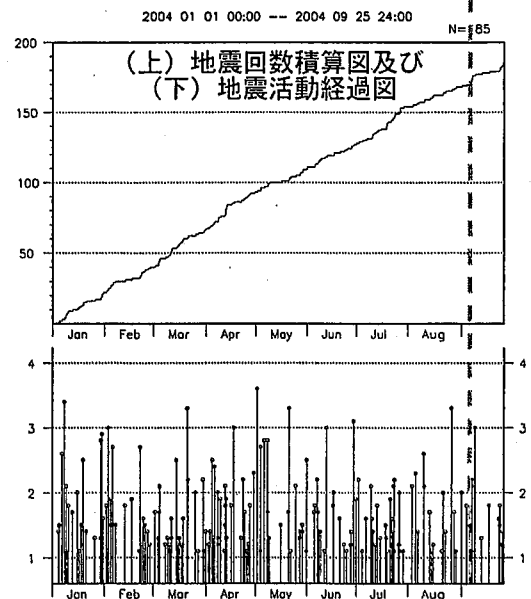
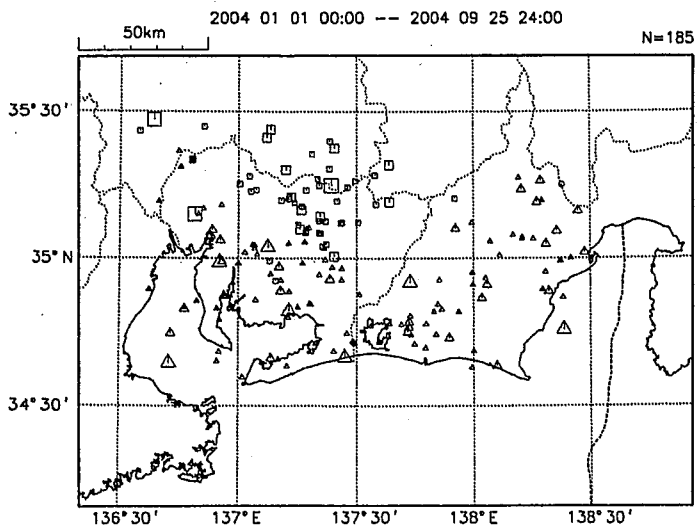
震央分布図 (2004年1月1日以降、 $M \geq 1.1$)



地殻内の震央分布図 (2004年1月1日以降、 $M \geq 1.1$)

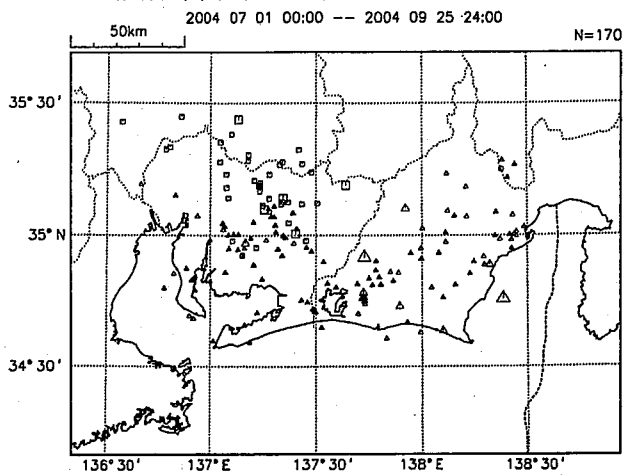


スラブ内の震央分布図 (2004年1月1日以降、 $M \geq 1.1$)

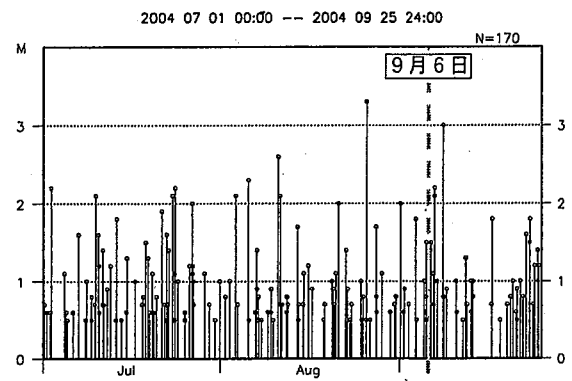


東海地方のスラブ内の地震活動

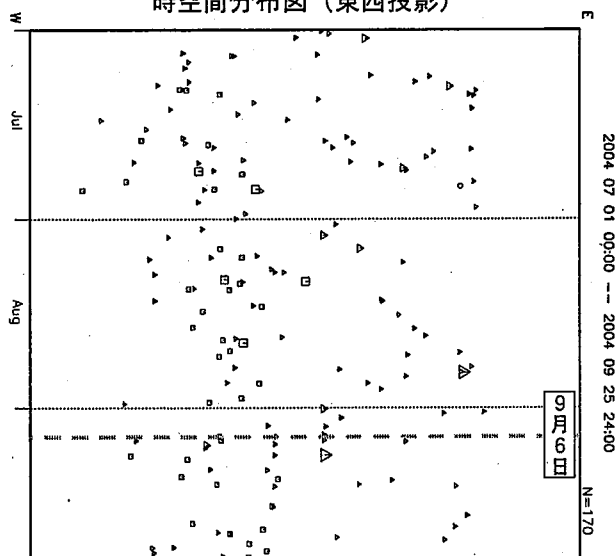
震央分布図 (2004年7月1日以降、 $M \geq 0.5$)



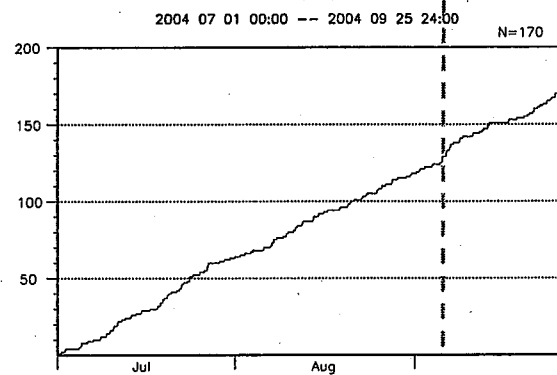
地震活動経過図



時空間分布図 (東西投影)



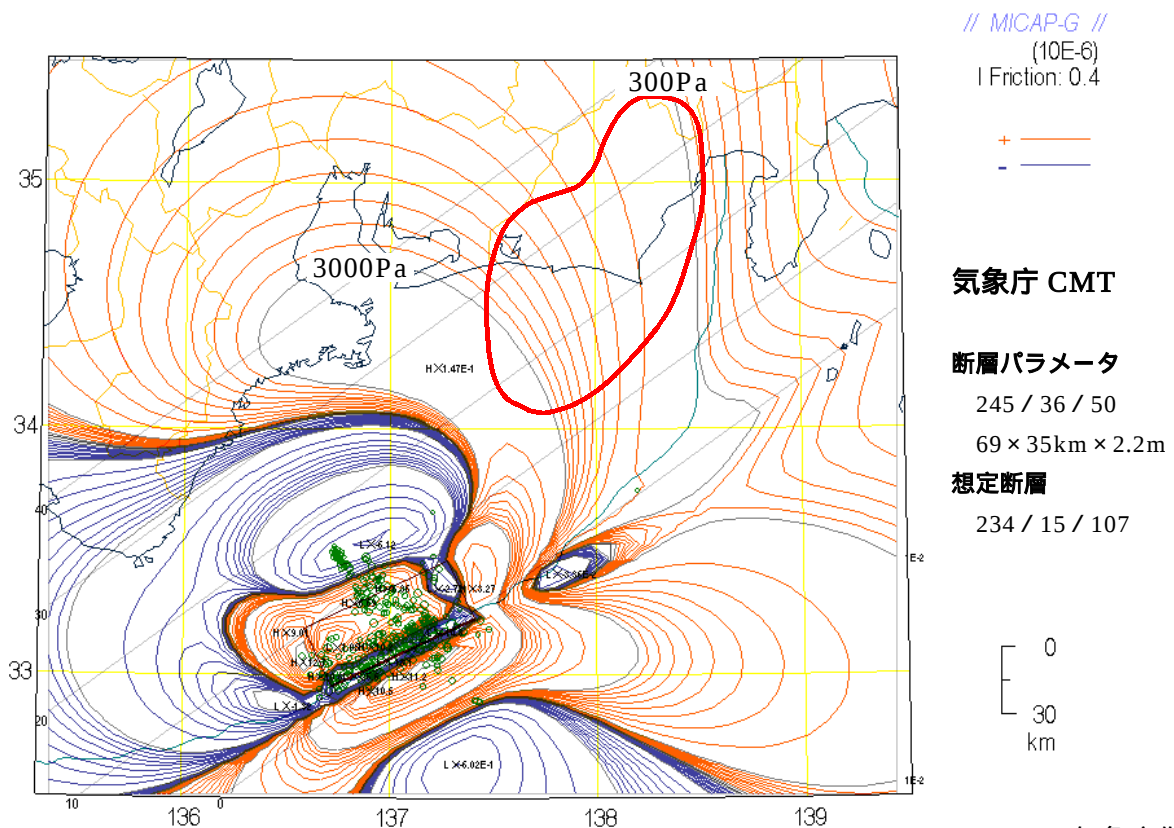
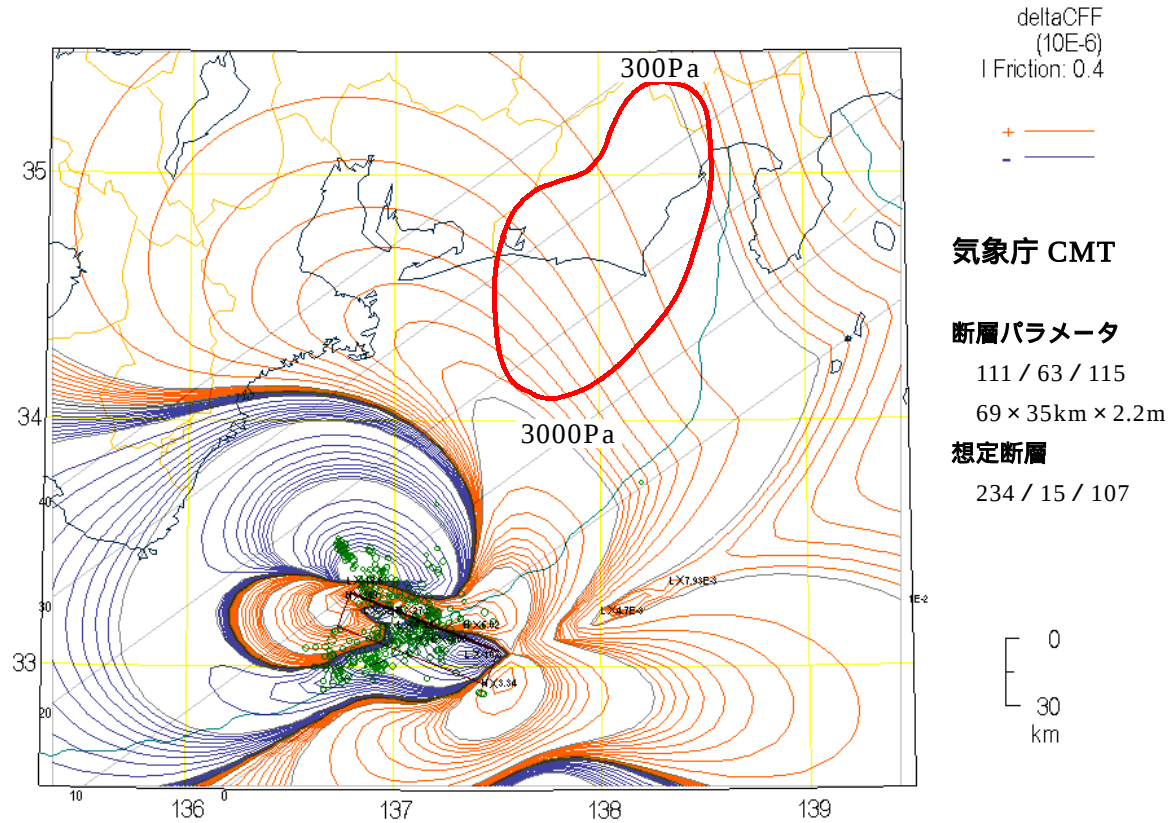
地震回数積算図



紀伊半島沖・東海道沖の地震直後にやや活発化した。

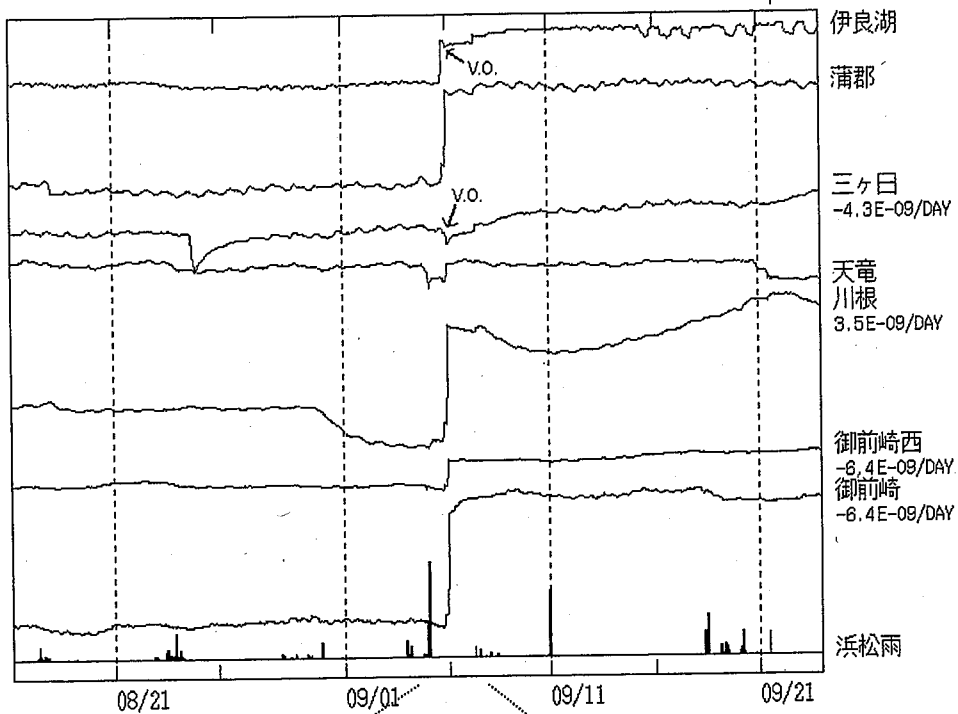
各断層モデルによる、東海地震に対する ΔCFF

9月5日の東海道沖の地震が想定東海地震に及ぼす影響（ ΔCFF ）を、気象庁 CMT 解、山中モデル、八木モデル、地理院モデル（2 ケース）について調べた。その結果どのモデルを用いても、東海地震を促進させるセンスであるがその大きさは概ね潮汐程度であった。



地殻体積歪変化(時間値) 気圧・潮汐・降水補正済 EXP. 2e-7 strain
50 mm/H

2004/08/16 00:00 — 2004/09/23 23:59



地殻体積歪変化(補正分値) 気圧・潮汐補正済 EXP. 2e-7 strain
50 hPa
50 mm/H

2004/09/05 00:00 — 2004/09/07 23:59

